## 令和7年度 学校自己評価(中間評価) 前期の成果と課題

25長野県屋代高等学校・附属中学校

回答数:70

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

			「「「「「「「」」」 「「「」」 「「」 「「」」 「「」 「」 「」 「」	職員評価					
評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	А	В	С	D	指標	
	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH先導的改革型Ⅲ期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	生徒の自発的・探究的な学びをサポートすることで、学校の特色化と探究的学びのさらなる深化を図った。SSH科目については、カリキュラムデザイン係とSSH係が連携して運営し、単位認定までを管理する仕組みを構築した。さらに、新規事業として「SS探究フロンティア信大特別講義:データサイエンスの活用」「理数科の英語でのポスター発表:サイエンスフェア」を実施し、データの分析・考察力や国際的な発信力を高めた。(カリキュラムSSH)						0 83.2	
		長野サイエンスコンソーシアム(NSC)事務局として学びの改革支援課と協力してオンラインミーティングを行い、加盟校の探究活動に関する困難点等を共有した。11月1日にNSC校及び県外SSH校から参加グループをつのり課題研究研修会を行うにあたり、SSHコーディネーターの山本先生にもご尽力いただき、会場となる信州大学工学部での準備も進めた。(カリキュラムSSH)	11月1日の課題研究研修会では、県内外の生徒が交流する機会となるだけでなく、指導者にとっても学びのある機会にしていきたい。SSHコーディネーター山本先生に関しては、他の県内校へ無料で出向いて助言者や講義ができることを県内に周知した。この取り組みについても普及できるよう働きかけていきたい。(カリキュラムSSH)						
<del>-1.</del>		次期SSH申請に関わる検討事項について、職員研修会で共有するための準備を進めた。7月には京都市立堀川高校および奈良県立青翔高校を視察し、本校の課題と今後の展望について研究を深めた。さらに、中高一貫校である茨城県立竜ケ崎第一高校・附属中学校と福井県立高志高校と、基礎学力の定着・向上に向けた取り組みについて意見交換した。(カリキュラムSSH)	を共有できる体制は整ったが、視察や意見交換で得た成果を本 校の教育活動に具体的に反映させるには至っていない。研修会						
1   づくり		SSH外部機関連携 5/25 JPGU学会発表 幕張メッセ 3年課題研究1クループ・3年海外研修1グループ 6/10 データサイエンス(統計講演会) 高校1年および中学1年 6/12 Wenona校オンライン 3年課題研究2グループ 7/7 サイエンスラボ(教育センター実習) 1年理数科 7/10 サイエンスフェア探究発表会(英語) 3年理数科 3年普通科 7/24-25 アカデミックサイエンス木曽天文台実習 2年理数科 8/5-7 東北サイエンスツアー 高校希望者40名 8/8 信大工・繊維・理・農学部講座 2年理数科および希望者 8/23 マスフェスタ(全国数学生徒研究発表会) 2年課題研究1・探究2グループ 8/28 マスフェスタ(全国数学生徒研究発表会) 2年課題研究1・探究2グループ 8/28 マスフェスタ(全国数学生徒研究発表会) 2年課題研究1・探究2グループ 8/28 ジオサイエンス(戸隠野外実習) 1年理数科 8/28 野外観察実習 1年普通科 8/20 課題研究中間発表会 2年理数科・普通科 8/20 計学年出前講座「探究の進め方」高校1年全員 9/27 千葉大学高校生発表会 3年課題探究1グループ	後期にも多くの活動を計画中。	26	41	3	0		
		STEAM探究関係事業 6/21 WWL東北新幹線サミット・コミュニティを中心とした各校の課題研究発表会 7/14 信州の組みひも及び和装・信州の伝統のファッションについて 7/16 「地域で未来をつくる」〜自然と地域とともに考えるデザイン〜 7/22 流体の数値シミュレーション〜美しい流れの世界へようこそ〜							
	ぜることができたか。							0 82.1	
		「キャリア講演会」(6/12)では9名、「屋代ミニ大学」(9/19)では8名の講師を分野別に招いて模擬講義を行い、生徒の進路希望に添うように実行できた。 (高2)	学校行事や夏季休業中のオープンキャンパスを通じ、生徒は 各自の進路を考えることができた。それらを踏まえ、3年次 の科目選択が行えるように面談等を通して指導していく。ま た、各自の進路実現に向けて学習に取り組むよう促す必要が ある。(高2)	23	44				
		文理それぞれの進路講演会を実施(6/12信州大学樽田誠一先生、9/19弁護士倉﨑哲也先生)。社会で活躍する本校0Bの講演を聴き、キャリア形成に対する意識を深めた。(高1)	文理選択の時期、方法を課題としているが、いずれも現状が最も適切と考える。7月の懇談で希望大学、受験科目を調べ話題とし事前の心構えを作るよう努めた。後期には、大学でデスカッション型講義実践する講師を招き模擬講義を実施する予定である。(高1)			3	0		
		夏休みにはジョブシャドウ、大学見学、夢ナビ動画のいずれかの取り組みと、6月、9月(と10月)のキャリア講演会実施することで進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。(高1)							
		学年行事「千曲市地域探索(1年 9/25)」「校外課題探究学習(2年) 5/21」「卒業探究学習(3年 週2回実施中)」を実施した。(中学)	これまでの学習を系統立てながら、体験的な学習の幅を広げていきたい。(中学)						
		BYODの実施により、中学3学年の生徒が個人の端末を学習に使用することで、学習の効率化と高校への連携を進めることができた。(中学)	端末を生かして学習を深化させると共に、個人端末の管理や情報モラルについても引き続き指導していく。(中学)						
キャリア	進路情報を生徒・保護者に向け 有効に発信できたか。	節目節目で学年集会(4月、6月、7月、8月の計4回実施)を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。初めて電子化される共通テスト出願についても学年集会にて説明を行った。前期は学年通信を13回発行して、必要な情報を届けている。(高3)						0 80.7	
教育		学年通信・進路だより・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校 行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。 (全学年)	更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めた い。 (全学年)	22	42	6	0		
		学年通信、学年PTAを通してキャリア形成に関する情報を発信した。また、全学年保護者を対象に「進路研修会」(8/30)を実施した。(中学)	生徒・保護者に対して進路情報を適切に発信するとともに、 生徒が将来の自分について考える場を積極的に設けていきた い。 (中学)						
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路 実現の可能性を拡げることができ たか。	科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し、目標を下げないように指導している。 (高3)	模試の結果を踏まえつつ、諦めずに最後まで頑張らせたい。 (高3)						
		学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策 を検討した。(高2)	高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2)						
		進路講演会を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、大学や入試の変化を理解し、現段階で幅広く学習する意識を高めた。(高	各成績層に応じた取り組みの重視。全教科にわたる総合的学 力の養成をめざすよう指導を進める。(高1)	29					
		教科「情報」の共通テスト対策については、補充授業・自習ICT教材、全国模試などの活用を行い対応した。(カリキュラム 情報担当)	プログラミングなど、ウイークポイントを重点的に対策し、 向上が見られた。引き続き、対策を進めたい。(カリキュラム 情報担当)		38	3	0	0 84.3	
		6月11日に第1回職員研修会を実施した。今回は「2025大学入試総括」をテーマとし、入試制度の動向や新科目「情報」の位置づけ、また他進学校における進学傾向について説明をいただいた。入試問題の変化や今後求められる学力についての解説があり、本校の指導の方向性を再確認した。(カリキュラム 職員研修)	第2回職員研修会(11/12) では、校内での学力調査結果や全 国的な学力状況を踏まえ、本校の現状と課題を分析し、効果 的な指導方法について研修する予定である。(カリキュラム 職員研修)						
		水曜日の放課後に「CSS(Co-study space)」を開設し、自主的な学びの場として 生徒のサポートに充てた。(中学)	引き続き生徒が主体的に学習に取り組む環境づくりに注力していきたい。(中学)						
		   学力推移調査(国数英 4/8中3 4/17中1·2 9/1中1∼3)を実施し、生徒の学習状	結果を個人面談で生徒にフィードバックし、学習の方法や目標に						

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題		職員	平価		北上市	
				Α	В	С	D	指標	
			定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。 (高3)	生徒の精神面も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。 (高3)	19			0	80.4
	キ		面談や模擬試験等の機会を利用しながら、志望大学・学部等を考えさせる指導・支援ができた。(高2)	修学旅行明けの11月以降、受験意識を高めた学校生活へ移行 できる指導体制を進めたい。(高2)					
	ャリア		定期考査の成績や春のスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握 を行い、個別面談等の指導に生かした。(高2・高1)	指導・支援を継続していく。(高2・高1)					
2	教	握し、それを集団と個々に応じた 指導に活かすことができたか。	学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、改善すべき点を確認した。特に、学習習慣の確立と学習時間の確保については入学当初から記録を通じて生徒個人に自覚を持たせた。(高1)	生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。また個人で異なる学習方法についても自分に最も適した学び方を発見して継続的に行う指導を続ける。(高1)		47	4		
	70		各教科で定期考査やチェックテストの結果を指導の改善に生かすと共に、個別の相談や指導を行った。(中学) 通知表のほかに「学びの軌跡」を発行し、生徒が自分で学習の定着状況を振り返ることで自己調整しながら学習を進めていくことができるようにした。(中学)	定期考査や学力推移調査のほかに、授業内に行うチェックテストの結果を分析することで、さらに「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めていく。 (中学)					
3	授教科指導	育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努める	第1回校内ICT研修会を6月11日に実施し、2名の先生からCanvaを活用した効果的なプリント作成の工夫や、Google Sitesを用いた情報発信の取り組みについて紹介があった。研修にあわせて校内授業参観も実施し、各教科でICTの活用や授業展開の工夫を共有する機会を設けた。教科横断的に先生方の授業を参観することで、互いに刺激を受け、授業改善や指導力向上を図った。(カリキュラム 職員研修)	第1回の研修会は概ね好評をいただいた。CanvaやGoogle Sitesなど、比較的取り組みやすいアプリケーションを題材としたことで、すぐに授業や校務に生かせるヒントが得られた。年2回の研修会と校内授業参観を継続する。(カリキュラム 職員研修)	28	39	3	0	83.9
	1/2	個別に支援や配慮を必要とする 生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	外部機関の支援のコーディネート(6回)支援会議設定(8回)保護者懇談同席(20回) 他外部会議への出席、研修会出席等、配慮が必要な生徒に対して個別に支援をおこなった。職員向け研修会(スクールソーシャルワーカー)6月4日実施。(生徒支援)		29	9 38	3	0	84.3
	支援		担任・学年と連携を取りながら、養護教諭の的確なアドバイスを受け、学校全体の支援 体制の構築と、スムーズな運営のために、毎週係会をおこない検討した。医療機関や カウンセラーに繋ぐケースが多くみられた。(生徒支援)	の支援だけに留まらず、職員の生徒支援スキル向上に向けての 情報提供をおこなっていく。(生徒支援)					
4		かってきたかい	始業式・長期休み前には生徒指導主任の講話で、交通事故の話題にふれ、ヘルメットの着用含め全校生徒に伝えた。また職員による交通立ち番を複数回実施して、交通安全やヘルメット着用について声掛けをした。(生徒支援)	後期も前期同様の取り組みを行い、交通事故を無くす努力を継続する。(生徒支援)	25	43	2	0	83.2
指導		SNSでの人権侵害、いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	入学式や終業式で話をしたり、県警(5月15日)より講演を頂いたりし、啓発活動を行った。特にSNSに関わる事案については強調し注意喚起を促した。(生徒支援)	後期も、安全な学校生活となるよう、生徒支援や学年会にて情報 を共有していく。(生徒支援)	20	49	1	0	81.8
	権教	基盤として行われ、いじめや体罰 のない安心安全な学校づくりに	9月16日、職員人権研修会実施。講師に、信州大学グローバル化推進センター教授でNPO法人「中信多文化共生ネットワーク(CTN)」代表理事でもある佐藤友則先生をお招きし、「日本の多文化共生と基本法および多文化共生授業の必要性」をテーマに講演を行った。(人権道徳教育係)	考え方や行動様式を取り入れることで、日本社会の発展につなが	25	44	1	0	83.6
5	報発	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	定期的(週に1回を目途)にハトニワを更新し、リアルタイムで情報発信することができた(教務広報)	継続して定期的なハトニワの更新を行う。また、後期予定するHP 更新に伴い、本校の魅力を伝える構成を検討する。(教務広報) 「3つの方針」「グランドデザイン」の更新を検討する。(教務広報)	18	49	2	1	80.0
		質実剛健の気風を大切にして、 執行部と各会員が一体となった	6月末開催の第69回鳩祭に向け、5月に生徒総会、準備のための一斉係会2回、事後の一斉係会1回、そして4月以来6回にわたる正副係長会を実施し、鳩祭成功のための議論を重ねることができた。(生徒会)	鳩祭では、コロナ禍後も、食事や喫茶の場所を拡大するなど、衛 生や安全に注意した運営ができた。生徒個人の文化的活動の発 表の場としても、さらに鳩祭を活用していきたい。(生徒会)	24				0 83.2
待	徒会	自主活動のための指導・支援を 行うことができたか。生徒一人ひ とりが、生き生きとした活動をする ことができたか。	ことができたか。生徒一人ひ 生徒会役員を中心に、クラスマッチ、鳩祭をはじめとした行事成功のための献身的な が、生き生きとした活動をする 生徒会役員を中心に、クラスマッチ、鳩祭をはじめとした行事成功のための献身的な	4月の生徒総会において、昨年来の懸案であった理科系クラブの統合が可決され、幅広い研究活動ができるようになった。クラスマッチに導入した新企画は好評であった。後期は班室整備の強化や先の見通しをもった生徒会予算の作成をしていきたい。(生徒会)		45	1	0	
体	ماسط	清掃用具の充実を図ると共に、 生徒が自主的に校内美化を進め られるように、指導・支援を行うこ とができたか。	校内清掃用具ロッカーの調査を行い、用具の過不足を調整した。(教務厚生)	清掃用具ロッカーの用具の点検と補充を再度行う。(教務厚生)	18				2 75.7
内美	内美		ワックスがけを教室と廊下を2期に分けて行い、作業の効率化を図った。(教務厚生)	班室の清掃、ごみの分別収集を生徒会と協力しながら改善したい。(教務厚生)		38	12	2	
			清掃用具庫の備品の過不足を調整した。ゴミステーション・段ボール収納・資源ごみ収納について日常の指導を行った。(教務厚生)						

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点になるように換算しました。 〔換算式〕 25 × (4点×Aの数+3点×Bの数+2点×Cの数+1点×Dの数)÷総数